

ポンピドゥーセンターはパリの中心部に近い「ランビュトー駅」の前に1977年に建てられた。

設計者はレンゾ・ピアノ&リチャード・ロジャースで、ジャン・プルーヴェが審査委員長を務めたコンペの一等案に選ばれている。〈未来的〉、〈工業的〉と称されるこの建物は、パリの街並にそぐわないのでは、といった反対の意見もあった。

しかし、建設されて約30年経た今、数多くの現代芸術の所蔵、音響研究、図書館といったカテゴリーが館内に入り、見学に行った日も多くの来館者で賑わっていた。敷地の半分は石畳状の広場になっており、パフォーマンス・アートや学生のイベントが行われるスペースという機能のほかにも、この建物が街に対峙する緩衝エリアでもあるように思えた。

独創的なファサードの役割を果たしているチューブ(エスカレータ)で建物上層階まで上ると、レ・アル地区やシテ島の景色が広がっている。最上階の最も眺望がいいエリアにカフェを配置するあたり(街区の角地も大抵はカフェである)もパリの文化的な側面が垣間見えると感じた。

